

川崎重工と日本向け対潜戦型ユーロドロンの検討で覚書を締結



幅広い任務に対応するユーロドローン

エアバスと川崎重工業株式会社は「U950 ユーロドローン」の日本向け対潜水艦戦型の可能性を共同で検討する覚書を締結しました。日本は 2023 年から欧州初の大型長時間滞空無人航空機システムであるユーロドローン・プログラムにオブザーバーとして参加しています。

ユーロドローンは、広大な海域を監視する必要がある日本のような国に最適な無人航空機です。同クラスの競合機と比較して、超長時間の滞空性能を誇り、対潜戦用ソノブイや魚雷など、より多くの装備品を搭載して飛行することができます。ユーロドローンによって、日本は既存の有人対潜戦フリートを効率的な無人機で補完し、独自かつ持続可能な方法で海上の安全保障を強化することが可能になります。

今後エアバスは川崎重工との協議に入り、将来の日本向け対潜戦型ユーロドロンの設計、開発、および製品化における様々な可能性を探索します。想定される機体の仕様や、日本のセンサーと兵装の統合、製造や維持整備の段階における日本産業界とのワークシェアなどの可能性を検討します。これにより、日本がこのユーロドロンの導入を決定した際に、制限なく独自に運用を行うことが可能と

なります。

この日本との協業は、ユーロドローン・プログラムを促進すると同時に、欧州と日本の防衛協力の戦略的枠組みを発展させることになります。さらに、日本に特化した派生型の開発から得られる知見によって、将来の欧州海軍向けユーロドローンに、運用および後方支援上の大きな利点をもたらすでしょう。

ユーロドローン：長時間滞空可能な、幅広い任務に対応する無人航空機

ユーロドローンはドイツ、フランス、イタリア、スペインの 4 カ国による開発中のプログラムです。防衛装備協力共同機構（OCCAR）が管理を担い、2029 年に初飛行が予定されています。インドもオブザーバーとして参加しています。航空情報収集、監視、目標補足、偵察から、早期警戒や信号情報収集、さらには海洋哨戒や対潜戦にいたるまで、幅広い任務に対応することができます。最大 2.3 トン（燃料を除く）のペイロードを搭載し、最長 40 時間滞空が可能です。また、民間飛行空域においても運用可能で、高い安全性と冗長性を備えているため、公海上での運用に適しています。

contents**川崎重工と日本向け対潜戦型
ユーロドロンの検討で覚書を締結****A350-1000
「STARLUX AIRSORAYAMA シルバー」
を納入****エアアジア、A220 を 150 機発注****世界最長の航続距離を持つ
A350-1000ULR、初飛行に成功****スカンジナビア航空が
A330neo を 18 機発注****エアチャイナ・カーゴ、
A350F を追加発注****キャセイ・グループ、
A350F 貨物機を 2 機追加発注****日本の企業と宇宙分野で
3 つの戦略的パートナーシップを締結**

スターラックス航空の A350-1000「STARLUX AIRSORAYAMA シルバー」を納入

エアバスはこのほど、スターラックス航空のA350-1000「STARLUX AIRSORAYAMA シルバー」を引き渡しました。同機は日本を代表するアーティストの空山基氏とのコラボレーションによる特別アート機です。

仏トゥールーズのエアバスデリバリーセンターで引き渡し記念式典が開催され、スターラックス航空の張國煒会長とエアバスのラース・ワグナー民間航空機事業 CEO らが出席しました。

A350-1000「STARLUX AIRSORAYAMA シルバー」は、空山基氏を象徴するメタリックな美学を受け継ぎ、シルバーを基調にゴールドがアクセントカラーとして採用されています。

引き渡し式典終了後、張國煒会長はパイロットとしてフランスから台湾へのフェリーフライトに臨みました。

今回納入された「STARLUX AIRSORAYAMA シルバー」は、スターラックス航空にとって3機目のA350-1000となります。



写真提供 STARLUX

A350-1000「STARLUX AIRSORAYAMA シルバー」を納入

エアアジア、A220 を 150 機発注

エアアジアが、A220-300 を 150 機発注しました。A220 に対する単独の発注として過去最大となります。また、今回の発注により、A220 の総受注数が1,000 機を超え、世界市場における高い支持を裏

付けました。

本契約は、ミラベルにあるエアバスの施設でキャピタル A のトニー・フェルナンデス最高経営責任者（CEO）兼エアアジア・グループ・アドバイザーとエ

アバスのラース・ワグナー民間航空機事業 CEO が発表しました。また、式典にはカナダのマーク・カーニー首相およびケベック州のクリスティヌ・フレシェット州首相が出席しました。

この購入契約により、エアアジアはA220 を新規導入します。また、同社は、160 席を備える新しい客室仕様のローンチカスタマーにもなります。これは、機体両側の主翼上部に非常脱出口を1カ所ずつ増設することで、従来よりも10 席多い収容能力を実現したものです。

A220 はエアアジアの既存のエアバス機を補完し、同グループの路線ネットワーク拡大と成長を加速させる上で重要な役割を果たします。ASEAN 諸国や中央アジア路線で運航される予定で、より大型の機材を長距離の路線に投入することを可能にします。

A220 は同サイズの航空機の中で最も航続距離が長く、最も燃費に優れた最新の航空機で、100-160 人の旅客を乗せ最大 3,600 海里（6,700km）を飛行することができます。



A220 を 150 機発注したエアアジア

世界最長の航続距離を持つ A350-1000ULR、初飛行に成功

エアバスの A350-1000ULR (MSN 707) が、仏トゥールーズで初飛行を成功裏に実施しました。初飛行を行ったのは、カンタス航空が発注している 12 機のうちの初号機です。特別な飛行試験用計測機器を搭載した同機は、3 時間 43 分飛行し、高度 41,000 フィート超に達しました。操縦はエアバスの飛行試験クルーが担当しました。

A350-1000ULR はカンタス航空向けに開発されている機体で、シドニーとロンドンを結ぶ超長距離を史上初めて直行便で結ぶことが可能になります。飛行距離は約 10,000 海里、飛行時間は最大 22 時間におよびます。主に、機体に後部中央タンク (RCT) を追加したことにより、性能がさらに向上し、航続距離を 1,000 海里延長、世界最長の航続距離を実現しました。

初飛行では機体の全体的な性能チェックと新しい燃料システムの試験を行いました。これから、この改修の認証を得るために 2 ヶ月間にわたる飛行試験プログラムを実施します。さらに、ギャレーの新

しい空気冷却システムの認証も取得する予定です。超長距離飛行に備えて、より軽量で効率的な冷蔵ユニットが設置されています。また、客室内の換気および温度管理機能についても詳細な試験を実施します。

飛行試験プログラムの終了後、同機はカンタス航空の旅客機仕様へと変更される予定です。

2 機目の A350-1000ULR は現在最終組み立ての最終段階にあり、カンタス航空への引き渡し初号機として、2027 年 4 月に納入される予定です。

A350-1000ULR は、ベストセラーである A350 ファミリーの中で、A350-900、A350-900ULR、A350-1000 に続く 4 番目の派生型旅客機です。A350 ファミリーは燃料消費量と二酸化炭素排出量の大幅

な削減、新たな次元の快適性を実現し、長距離の空の旅における新たな基準を打ち立ててきました。

カンタス航空は、オーストラリアから超長距離直行便の未開ルートに就航する計画「プロジェクト・サンライズ」のもと、12 機の A350-1000ULR を発注しています。また、将来的な長距離路線での運航に向け、標準型の A350-1000 も 12 機発注しています。



初飛行を実施した A350-1000ULR

スカンジナビア航空が A330neo を 18 機発注

スカンジナビア航空 (SAS) が機材更新戦略の一環で A330-900 を 18 機確定発注しました。コペ

ンハーゲンで契約締結式典が開催され、SAS のアンコ・ファン・デル・ヴェルフ最高経営責任者 (CEO)

と、エアバスのブノワ・ド＝サンテグジュベリ民間航空機事業営業担当上席副社長が出席しました。

発注された A330neo は、SAS が現在進める国際路線ネットワークの拡大に寄与し、同社の既存の高需要路線の増便や、新規路線の開設を可能にします。

最新世代のロールス・ロイス社製トレント 7000 エンジンを搭載した A330neo は、最大 8,100 海里 / 15,000 キロをノンストップで飛行することができます。前世代の競合機と比較して、燃料消費量、CO₂ 排出量、運航コストを 25% 削減します。受賞歴のある革新的客室「Airspace」を装備し、新しいレベルの快適性を提供します。



スカンジナビア航空の A330neo

エアチャイナ・カーゴ、A350F を追加発注

中国国際貨運航空 (エアチャイナ・カーゴ) が、A350F 貨物機を 4 機追加発注しました。これにより、同社の A350F に対する総発注数は 10 機に増加しました。エアチャイナ・カーゴは 2025 年 11 月に 6 機の A350F を発注しています。

エアチャイナ・カーゴは 2023 年末にエアバスの貨物機の導入を開始し、現在は 8 機の A330-

200P2F 貨物転用機を運航しています。A350F が同社の機材に加わることで、A330-200P2F との相互補完が可能となり、長距離および中長距離路線におけるそれぞれの優位性を最大限に引き出すことができます。



エアチャイナ・カーゴの A350F

キャセイ・グループ、A350F 貨物機を 2 機追加発注

キャセイ・グループが A350F 貨物機を 2 機追加発注しました。これにより、同社の A350F 貨物機の発注総数は 8 機となります。A350F は同社の貨物部門であるキャセイ・カーゴによって運航され、広範な路線における効率性を高めていきます。

エアバスのブノワ・ド・サン＝テグジュペリ民間航空機事業営業担当上席副社長は次のように述べています。「キャセイが A350F を継続的に調達しているのは、A350F が新世代の貨物輸送能力と効率性をもたらすという証左です。A350F はキャセイが保有する既存のエアバス機と運航面および技術面で比類のない共通性を確保しているため、就航もスムーズです。さらに A350F 導入により同社の脱炭素化への取り組みを加速させていきます。エアバスとキャセイのパートナーシップをさらに発展させていくことを大変嬉しく思います」



キャセイ・カーゴによって運航される A350F

日本の企業と宇宙分野で 3 つの戦略的パートナーシップを締結

エアバスは、東京で開催された日仏の宇宙企業による調印式で、PASCO、Synspective、Space

Compass とそれぞれ画期的なパートナーシップを結びました。これらの多角的な協力を通じて、エア

バスは必要な場所の状況をより迅速に把握できる環境を構築し、日本の安全保障や災害対策における確かな意思決定をサポートしていきます。

長年のパートナーである PASCO とは、プレアデス・ネオによる高精細な地球観測データでの協力を拡大。日本の安全保障や災害対策に不可欠なデータ提供体制をさらに強化します。

最新鋭の SAR 衛星コンステレーションを展開する Synspective とは、レーダー衛星データの活用に関する基本契約を締結。グローバルな地球観測能力の向上を図り、防衛、セキュリティ、および災害管理における重要な任務を支援します。

Space Compass とは、光通信技術を活用した次世代の地球観測ソリューションに関する覚書を締結しました。光通信による宇宙空間での高速データ中継を活用し、リアルタイムに近い地球観測の実現を目指します。



宇宙分野で戦略的パートナーシップ締結

2026年度6月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機 種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	21,317機	13,269機	11,766機
A300 / A310	816機	816機	210機
A330 / A340	2,352機	2,048機	1,549機
A350	1,595機	725機	724機
A380	251機	251機	196機
合計	26,331機	17,109機	14,445機